

# 学校支援を積極的に進めよう

家庭と学校の連携による、新型コロナウイルス感染防止対策

～ 正しい手洗いを身に付ける活動を通して ～

岡崎市立福岡小学校父母教師会

## 1 学区及び学校の概要

J R 岡崎駅南 3 キロメートルの地にある本校は、140 年余の歴史を誇る学校である。市文化財指定の「土呂陣屋の松」は、不屈の心と思いやりの心の象徴として本校のシンボルとなっている。

児童詩教育、地域学習、健康教育を研究の柱に据え、主体的に健康増進を図ることのできる子ども、相手の立場や心情を理解しながら自分の想いを表現できる子どもの育成に努めている。

## 2 研究に至るまでの経緯

昨年度末から、コロナ禍でも P T A 役員として子どものためにできることはないかと日々考えさせられた。ウイズコロナの世の中で心身ともに健康に生きていくためには、今まで以上に体調を自己管理する習慣を身に付けることが必要である。3 密の回避、マスクやフェイスシールドの着用、手洗いなどの新型コロナウイルス対策のうち、手洗いに着目して実践しようと考えた。

## 3 研究のねらい

新型コロナウイルス感染予防のために、家庭と学校が連携しながら、正しい手洗いの知識と方法を身に付ける。

## 4 研究の仮設

- (1) 客観的に手洗いの効果を確認すれば、正しい手洗いへの意識を高めることができるだろう。
- (2) すこやかサミット（学校保健委員会）で正しい手洗いの方法を学べば、現在の手洗いの仕方を見直すことができるだろう。
- (3) 子どもが先生役になって、学校で学んだことを家族に伝えることができれば、家族そろって健康への意識を高めることができるだろう。

## 5 研究の方法

- (1) 自分の手洗いが正しいかどうかを意識喚起するために、ポスターを作成して掲示する。
- (2) 手洗いチェッカーを使用して、手洗いの効果を客観的に確認する。
- (3) 十分な手洗いができていないと汚れが落ちないことに気付かせるような動画を作成する。
- (4) ワークシートを作成して、家族全員が正しい手洗いができるようにする。

## 6 研究の実践

### (1) 役員オリジナル動画「見て！手のよごれ！」作成

学校では、手洗いの指導は十分されていた。しかし、正しくできているかどうかの個人差は大きい。それは、自分では十分だと思っても、手洗いの効果は目に見て確認できないからだろう。

そこで、正しい手洗いの方法を分かりやすく理解できる動画を作成した。完成した動画は、学校のホームページにアップし、誰でも気軽に関覧できるようにした。

## (2) 手作りの掲示物「見て！手のよごれ！」

手洗いへの意識を喚起するために、校内にポスターを掲示した。目立つ色を使い、写真やイラストを入れて、子どもの目に止まりやすいように工夫した。子どもたちが、「洗っても、きれいになってないね」「どうして、青く光ってるのかな」と、興味津々に見ていたので嬉しくなった。



## (3) すこやかサミット (学校保健委員会)

### ～魔法のライトで手洗い名人になろう～

すこやかサミットは、毎年、PTA専門委員会が中心になって開き、大勢の保護者の参加を得ていた。しかし、今年度は、例年のようににはできない。それでも、PTA役員から働きかけられるような時間にしたいと考え、学校と話し合いを重ねた。その結果、右のような内容に決まった。

### ア 動画にくぎ付け

子どもたちは、ブラックライトで照らされて青く光っている様子を見たとき、「きれい」「どうして光ってるのかな」と、思い思いの言葉を発していた。光ったところを念入りに手洗いしてから、再度ブラックライトを当てると、光らなくなった。「マジックみたい」「きれいになったんだね」と言う様子から、手洗いに興味をもっていることが伝わってきた。



### イ 手洗いの実験をしてみよう

動画と同じように青く光った手を見て、「石鹼を付けて洗ったのに、こんなに光るんだ」「手首は、なかなかきれいにならないんだね」「もっと時間をかけないといけないのかな」と、今まで通りの手洗いでは不十分だったことに気付くことができた。その後、念入りに手を洗うと、明らかに光るところが少なくなった。「これからは、石鹼を付けて力を入れて洗うよ」「放課に流れる手洗いの歌を歌いながら洗おうかな」という意欲満々な様子が伝わってきた。

### ウ 先生になって家族の手洗いをテストしよう

子どもが先生役になり、家族の手洗いの出来ばえを試した。「学校で正しい方法を学んでくれたおかげで、手洗いについて見直すことができました。家族全員が健康で過ごせるように、これからも正しく手洗いができるように声を掛け合っていきます」という保護者からの感想を得ることができ、家庭と学校が連携しながら感染症への対策を講じる機会ができたのではないかと感じた。

## 7 研究を終えて

子どもが心身ともに健康に生きてほしいと痛切に感じさせられる今、家庭と学校が連携を取りながら研究に取り組めたことを光栄に思う。生活習慣の中で、簡単だが重要である手洗いに目を向けた本実践が今後も継続されれば、PTA役員としてそれほど嬉しいことはない。